



特集

教育都市佐世保の

実現に向けて



算数の授業を受ける木風小学校の3年生

市では、21世紀を生き抜く子どもたちの育成と教育の活性化を図る目的で設置された「佐世保市の教育を考える市民会議」の提言を受けて、さまざまな取り組みを実践しています。

今回は、提言に関する推進計画の主な内容と、学校、子育て支援、地域の取り組みをいくつかご紹介します。

「こんな子どもに育ってほしい」という願いを込めて

「佐世保市の教育を考える市民会議」は、平成13年10月、子どもを取り巻く環境を見つめ直し、21世紀を担う子どもたちを育てるため、教育のあり方について市民全体で考える場として設置されました。

会議は、教育関係者など20人と公募による市民10人の合計30人の委員で議論が重ねられ、その結果は平成15年2月に提言書としてまとめられました。

市では、この提言を受けて平成15年度から19年度までの推進計画を策定し、その実現に向けて取り組んでいます。

推進計画の主な内容

【基本目標】
家庭教育の支援のための環境づくり

「家庭はすべての教育の出発点」との考えから、幼稚園・保育所などの

子育て支援機能の充実や子どもに関する相談体制の整備・充実、親への情報提供など、家庭教育の支援のための環境づくりを目指します。

【基本目標】
確かな学力と豊かな人間性をはぐくむ学校づくり

少人数指導体制の整備や学校2学期制の導入などによる確かな学力の形成と、道徳教育などの充実を図り、市内の歴史遺産や観光資源を活用した体験学習などの実施により豊かな人間性の育成を目指します。

【基本目標】
共育を目指す地域社会実現のための環境づくり

総合的な学習の時間を活用した地域の自然体験や職場体験、通学合宿、総合型地域スポーツクラブなどの活動を推進することで、子どもたちの自立心や社会性、協調性を育成する地域社会実現のための環境づくりを進めます。

学校の取り組み

市立小・中学校では、4月から全校一斉に2学期制が開始されます。平成16年度からモデル校として2学期制を試行している木風小学校の取り組みなどを紹介します。



昼休みに校庭で遊ぶ木風小学校の児童たち

2学期制導入までの経緯

平成14年度から文部科学省が示した「新学習指導要領」に基づき、子どもたちの個性や各学校の特徴を生かした教育が求められるようになるとともに、学校週5日制が実施され、授業日数が減少しました。

このような状況の中、教育を考える市民会議の提言を受け、本市では平成16年度から、木風小学校を含むモデル校10校（17年度は26校）で、2学期制の試行を開始しました。

2学期制のスケジュール（平成17年度木風小学校）

前期					後期								
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
春休み	始業式	入学式	個人面談	夏休み	終業式	始業式	秋休み	個人面談	冬休み	卒業式	修了式	春休み	
	始業式4月6日	入学式4月8日		夏休み7月23日～8月31日	終業式10月7日	秋休み10月8日～12日		個人面談	冬休み12月25日～1月7日	卒業式3月16日	修了式3月24日		
					始業式10月13日								

期待される主な効果

- 始・終業式が1回ずつ減り、授業時間が増えます。
- 児童・生徒と教師が余裕を持ってじっくり向き合いながら学習でき、教師が児童・生徒をしっかり評価できるよう、学期が従来よりも長い期間になります。

木風小学校の主な取り組み

- 行事の見直しなどで、年間20時間程度授業時間が増えました。
- 夏休みに、希望する児童を対象にして、国語・算数の補充学習や学習・生活相談を実施しました。
- 家庭訪問とは別に、全保護者と担任との個人面談を7月と12月に実施しました。
- 保護者や地域から理解を得るため、独自で作成したチラシを校区内の全世帯に配布しました。

（主な成果や課題）

- 個人面談などを通して、保護者と情報交換する機会が増え、信頼関係を深めることができました。

少人数指導の取り組み

市立小学校では、国語や算数などで少人数指導が実施されています。



2クラスを3つに分けて行う算数の授業（木風小学校3年）



2人の教師で指導する国語の授業（木風小学校1年）

- 夏休みの学習相談や学校施設開放では、児童の登下校の安全確保が課題となっています。
- 立岡伸一校長は「2年間の試行期間中は試行錯誤の毎日でしたが、モデル校としての誇りと自信を持って、さらに研究をしていきたいと思えます」と抱負を語りました。

お尋ね

市教育委員会学校教育課

(☎) 11111